

北海道大学と株式会社日立製作所が動体追跡粒子線がん治療装置で 全国発明表彰「恩賜発明賞」を受賞 「北海道大学入試改革フォーラム2017」を開催

お知らせ

- ・「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成28年度）」の概要について
- ・第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果
- ・夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について





全国発明表彰「恩賜発明賞」受賞



若手研究者向けリーダーシップ研修

全学ニュース

- 1 北海道大学と株式会社日立製作所が動体追跡粒子線がん治療装置で全国発明表彰「恩賜発明賞」を受賞
- 2 「北海道大学入試改革フォーラム2017」を開催
- 3 「数理・データサイエンス教育研究センター」を設置
- 3 オランダ王国大使館農務参事官の講演会を開催
- 4 北大フロンティア基金
- 6 平成29年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙げる
- 6 平成29年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙げる
- 7 「第2回北海道大学フィンランドデイ みんなで夏至祭を楽しもう！」を開催
- 8 高等教育研修センターにて各研修等を開催
- 9 「製薬企業4社合同 共同研究公募事業説明会」を開催
- 9 「設備市場システム 部局等説明会2017」を開催
- 10 化学物質取扱講習会を開催
- 11 人材育成本部国際人材育成プログラムI-HoPで若手研究者向けリーダーシップ研修（英語）を開催

部局ニュース

- 12 北海道大学大学院工学院－九州大学大学院工学部 共同資源工学専攻開設式を挙げる
- 13 農学研究院と国際食資源学院が北海道と農林・食分野の連携協力に関する覚書調印式を実施
- 13 経済学部成績優秀者表彰式を挙げる
- 14 環境科学院で北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催
- 15 6研究所・センター合同で一般公開を開催
- 18 薬学部で薬害をテーマにFD研修会を開催
- 19 保健センターで第5回健康キャンパス北大「健康づくり支援セミナー」を開催
- 20 突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点が「北海道防災・減災シンポジウム2017」を開催

- 21 北大と東北大のリーディングプログラムが合同シンポジウムを開催

お知らせ

- 22 「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成28年度）」の概要について
- 23 第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果
- 24 夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について

博士学位記授与 25

諸会議の開催状況 27

学内規程 28

研修

- 29 平成29年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修

表敬訪問 30

人事 31

- 34 新任部局長等紹介
- 34 新任部課長等紹介
- 35 新任教授紹介

訃報

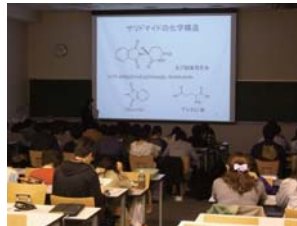
- 36 名誉教授 白田 平 氏



農学研究院 国際食資源学院
北海道と農林・食分野の連携協力に関する覚書調印式



環境科学院
北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」



薬学部
FD研修会



北大・東北大リーディングプログラム合同
シンポジウム

■ 全学ニュース

北海道大学と株式会社日立製作所が動体追跡粒子線がん治療装置で全国発明表彰「恩賜発明賞」を受賞

公益社団法人発明協会の平成29年度全国発明表彰において、本学と株式会社日立製作所が開発した動体追跡粒子線がん治療装置（特許第05896211号）が恩賜発明賞を受賞し、東京都内のホテルで常陸宮殿下のご臨席のもと、表彰式が開催されました。

表彰式には、本学から名和豊春総長及び受賞者である工学研究院の梅垣菊男教授、医学研究院の白土博樹教授、北海道大学病院の宮本直樹助教、工学研究院の松浦妙子准教授、株式会社日立製作所から中西宏明取締役会長兼代表執行役を筆頭に同社の受賞者等が出席しました。

全国発明表彰は、日本における発明、考案又は意匠の創作者並びに発明の実施及び奨励に関し、功績のあった

研究者・科学者を顕彰することにより、科学技術の向上及び産業の発展に寄与することを目的として1919年に創設された賞であり、今回受賞した恩賜発明賞は、皇室からの御下賜金を拝受して行う象徴的な賞として、最も優秀と認められる発明等の完成者に贈呈されるものです。

この度の受賞業績である動体追跡粒子線がん治療装置の発明は、肺や肝臓のような呼吸移動する部位にある腫瘍に対し、腫瘍位置をリアルタイムに捉えて正確に粒子線を照射する技術を開発し、製品につなげたものです。粒子線治療は痛みがほとんどなく、他の放射線治療に比べて副作用も少ないため、患者さんの生活の質を維持しつつがん治療ができる最先端の治療法とし

て、国内外の医療機関で導入が拡大しています。

本学と株式会社日立製作所は内閣府／日本学術振興会・最先端研究開発支援プログラムの支援を受け、本学が持つ動体追跡照射技術と株式会社日立製作所が持つスポットスキャニング照射技術の両方を世界で初めて搭載したシステムを共同開発しました。北海道大学病院では平成26年から本技術を適用した陽子線によるがん治療を行っています。

本学は、今後も研究成果の社会還元を継続し、よりよい社会の実現を目指します。

(総務企画部広報課)



本学の受賞者4名



名和総長と本学の受賞者



恩賜発明賞パネルと製品見本

「北海道大学入試改革フォーラム 2017」を開催

5月22日（月）に学術交流会館において、「北海道大学入試改革フォーラム2017」を開催しました。

今回が第1回となる本フォーラムは、次世代を見据えた入試改革の向かうべき方向性について検討することを目的としています。

「高校・大学・社会をつなぐ大学入試を目指して」というテーマのもと、名和豊春総長からの冒頭挨拶の後、第1部では基調講演として、大学入試センター試験・研究統括官の大塚雄作氏の「高大接続と大学入試改革の今－共通試験の役割を問う－」と題する講演に続き、北海道大学新渡戸カレッジ

フェロー（元トヨタ自動車製造トルコ社（TMMT）社長）小林浩治氏からは、「企業が求めるグローバル人材－自立化・実践力」と題して講演いただきました。

第2部では、本学高等教育推進機構の池田文人准教授より「北大が目指す高・大・社接続型入試改革－TGP入試とコンピテンシーテスト－」をテーマに、本学の入試改革に関する検討状況や今後の課題等についての報告を、また、前北海道清水高等学校長の西嶋潤一氏からは「高等学校の現状報告－高大接続システム改革、北大入試、大学入試に対して」と題して現状報告を

していただきました。

また第3部のパネルディスカッションでは、第1部、第2部の基調講演や現状報告に対する来場者からの質問などを紹介しつつ、今後の入試改革の方向性などについて総括的に討論しました。

今回のフォーラムは主に高等学校等の進路指導担当教諭、受験産業、他大学の教員の方等242名の参加があり、盛会のうちに終了しました。

（アドミッションセンター）



名和総長の開会の辞



大塚氏の講演



小林氏の講演



池田准教授の講演



西嶋氏の講演



パネルディスカッションの様子

「数理・データサイエンス教育研究センター」を設置

7月1日に本学の学内共同教育施設として、「数理・データサイエンス教育研究センター」が設置されました。

センターは、数理的思考及びデータを分析し、活用する能力を用いて、社会における諸問題の解決及び新しい課題の発見並びにデータから価値を生み出すことができる人材を育成し、超スマート社会の実現及びその社会における競争力の向上に資することを目的としています。

現在、産業界では、データを適切に扱うことのできる人材不足が大きな問題となっており、それに対し、学生が実践的なデータ解析を学ぶ機会は少な

い状況です。自然科学・工学・医学・人文社会科学などの発展のために、実データを活用できるデータサイエンティストとしての技能・資質のある人材を養成することは喫緊の課題となっています。

本学では、従前より、全人教育の理念のもと、全学教育において統計学をはじめとするデータサイエンス関係の講義を行っており、また、ほぼ全ての学部において、データを取り扱うための講義が開講されています。

産業界のニーズと本学における取組実績に基づき、センターでは、様々なデータを適切に扱うことができる素養

を有し、各自が習得する専門分野において実践的なデータを扱うことができる人材を養成するとともに、学部横断型の数理・データサイエンスに関するカリキュラムを編成して、他大学や高等専門学校、民間企業等との連携により、広く北日本を対象としたデータサイエンス教育を強化し、併せて、学部教育から大学院教育へ発展させることを視野に入れた体系的な教育基盤を形成することにより、社会の要請に応える人材を育成します。

(学務部学務企画課)

オランダ王国大使館農務参事官の講演会を開催

産学・地域協働推進機構では、農学研究院・国際食資源学院との共催で、6月21日(水)に「農業王国オランダの今を語る－第3次農業革命に向けて－」と題し、オランダ王国大使館農務参事官 Evert Jan Krajenbrink氏の講演会を農学部大講堂において開催しました。

オランダの農作物の輸出額はアメリカに次いで世界第2位で、その背景にある食のサイエンスとビジネスを融合させ、世界の食の一大集積拠点となっ

たオランダフードバレーは、世界中から注目を集めています。昨年9月にオランダ王国大使館農務参事官として着任されたKrajenbrink氏の初めての来道を機会に、「オランダ農業クラスターの課題と展開」と題してご講演いただきました。

講演では、オランダと日本の農産物の輸出入額を比較しながら、オランダは一次産品を安価に仕入れ、付加価値をつけて利益を得ているのに対し、日本は輸入偏重と言わざるを得ない状況

にあること、オランダ農業クラスターの成功の要因は、いわゆる産学官のゴールドトライアングルがうまく連動し、その中心に大手企業が参画していることなどを示されました。

短期間の募集にもかかわらず、学内外から132名が出席し、オランダ農業に対する関心の高さがうかがえました。

(産学・地域協働推進機構)



公演中のKrajenbrink氏



会場の様子

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額（6月30日現在）

20,526件 4,165,574,764円

6月のご寄附状況

法人等5社、個人728名の方々から9,736,200円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社クレタ、埼玉県立不動岡高等学校1年7組、佐藤工業株式会社、特定非営利活動法人メディカルイメージラボ

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	浅野 賢二	麻生多賀子	穴田 英人	阿部 修也	池谷 和昭	石川三千雄	井出 肇
今田 忠司	井町 常郎	入澤 秀次	江渡 政恵	海老澤清也	沖 幸雄	小熊 豊	小内 透
小原 大和	埴山 雅秀	金川 眞行	金田 清志	神谷 強	亀田耕一郎	川口 正尚	河本 充司
菊地 隆男	熊澤 哲夫	小坂橋泰文	斉藤 久	齋藤 嘉郎	坂岡 博	坂詰 一巳	坂本 直哉
桜井 謙介	佐々木 学	佐藤 栄一	三升畑元基	三田きみ代	重田 親司	篠原 邦夫	清水 智之
清水 奈美	城崎 昌彦	末藤 貴	鈴木 聡	鈴木 誠治	鈴木 貴	鈴木 晴美	鈴木 正敏
須藤 章	首藤安都子	須藤 光治	関野 聡	瀬名波栄潤	田口 安範	竹内 祐一	武田 和也
竹田洋一郎	只野 和枝	立岩 優征	田中 稲藏	田中 啓之	玉木 規夫	近間泰一郎	塚越 宏昭
土家 琢磨	寺澤 陸	豊田 威信	中西映里子	中野慎一郎	中村 楯夫	西村 浩一	西村 秀樹
沼里 一久	長谷 潮	畠山 一彦	服部 康喜	早川 佳邦	林 達也	林 正雄	稗田 義雄
東口 徹	廣重 力	廣瀬 道雄	福田 信也	福田ちはる	藤原 克司	古田 文男	堀 信一郎
本間 静子	前田 誠	町田 真樹	松崎 貞夫	松村 寛	丸川健三郎	三木 正敏	村上 昌樹
村上 幸夫	矢ヶ崎啓一郎	保本 正美	柳瀬 洋也	山 公美子	山内 隆嗣	山崎 敏彦	山田 芳則
山根 聖章	山本 裕之	吉岡 正俊	吉田 広志	渡辺 治人	渡邊 稜		

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人等）

佐藤工業株式会社、特定非営利活動法人メディカルイメージラボ

（個人）

井出 肇、小熊 豊、金田 清志、坂本 直哉、篠原 邦夫、田中 稲藏、丸川健三郎、村上 幸夫

感謝状の贈呈

北海道大学校友会エール 様
(平成29年6月7日)

伊藤組土建株式会社 様 (平成29年6月19日)



宮脇 敬 様 (平成29年6月20日)

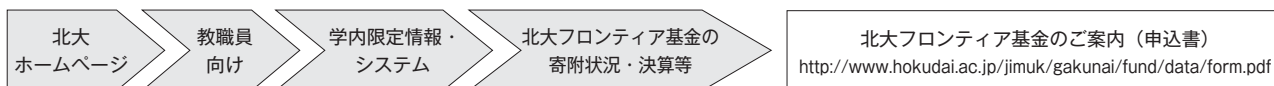
一般社団法人 北海道CGCみどりところの基金 様
(平成29年6月23日)

栄研化学株式会社 様 (平成29年6月29日)

ご寄附のお申し込み方法

① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

④ クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ (<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>) のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室 (事務局・学内電話 2017)

(総務企画部広報課)

平成29年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙行

6月23日（金）、高等教育推進機構中会議室において、平成29年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙行し、10名の学生が受賞しました。

宮澤記念賞は、1年次に履修した外国語科目のうち、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び韓国語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、今回が第3回目の表彰となりました。

授与式では8名の受賞者が参加し、

長谷川晃理事・副学長、西川克之外国語教育センター長、そして出口寿久学務部長の列席のもと、長谷川理事・副学長から受賞者へ賞状及び図書カードが授与され、「本賞創設の意義を理解いただき、国際的な視野を持ち、今後ますます活躍していただきたい」との挨拶がありました。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	川崎 香穂里
文学部	廣岡 拓也
文学部	泉 丈
理学部	中田 百音
文学部	安部 亨太
文学部	白井 大地
文学部	白川 満由花
法学部	諏佐 寿柁
文学部	阿部 佑香
農学部	阿久津 萌



受賞者記念撮影



授与式の様子

平成29年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙行

6月30日（金）、高等教育推進機構中会議室において、平成29年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙行し、6名の学生が受賞しました。

レーン記念賞は1・2年次の英語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、昭和40年から「レーン記念奨学金」として始まり、平成9年からは「レーン記念賞」と名を改め、今回を含め375名の学生に授与されています。

授与式には4名の受賞者が出席し、長谷川晃理事・副学長、渡邊 洋名誉教授、外国語教育センターから奥 聡教授、土田映子准教授そして出口寿久学務部長の列席のもと、奥教授からレーン記念賞の歴史と、本賞に名をいただいているハロルド・Mレーン（Harold M. Lane）先生の功績についての説明がありました。

次いで長谷川理事・副学長から受賞者へ賞状、記念メダル及び図書カード

が授与され、「皆さんには今後も英語力により一層磨きをかけて、国際性豊かで周囲から敬愛される人間を目指していただきたい」との挨拶がありました。

水産学部の受賞者については、7月4日（火）に函館キャンパスにて授与式を行いました。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	稲葉 渉太
文学部	高尾 渉
法学部	辻ノ 綾音
農学部	斉藤 杏奈
水産学部	坪井 里奈
理学部	岸本 悠佑



受賞者記念撮影（高等教育推進機構）



受賞者記念撮影（函館キャンパス）

「第2回北海道大学フィンランドデイ みんなで夏至祭を楽しもう!」を開催

6月25日(日)、本学欧州ヘルシンキオフィスの主催(北海道フィンランド協会等共催、駐日フィンランド大使館、在札幌フィンランド名誉領事館後援)により「第2回北海道大学フィンランドデイ みんなで夏至祭を楽しもう!」を開催しました。

保健科学研究院の横澤宏一教授の司会で、第1部は「フィンランドの文化とアイデンティティ」をテーマに、東フィンランド大学から本学に留学中のヨナス・カウッピネン氏による「フィンランド人の夏」に始まり、高等教育推進機構の池田文人准教授が「ムーミン物語に見るフィンランドの教育」について講演しました。その後、本学現代日本学プログラムで学ぶシリヤ・イヤス氏が民族叙事詩カレワラについて、北海道フィンランド協会のこうのちえ氏と保健科学研究院博士課程のジェレッド・ボーセン氏がフィ

ンランドの伝統楽器カンテレとヨウヒッコについて紹介しました。伝統楽器の演奏を初めて聴く参加者が多く、幻想的な音色や旋律に聴き入っていました。

第2部は「フィンランドと日本」をテーマに、東海大学附属札幌高等学校で教鞭を執る工藤優樹教諭が多くの写真とともに「フィンランド概史」について、本学北極域研究センターのユハ・サウナワラ助教が「フィン日関係の100年」について講説しました。最後にヘルシンキオフィスの田畑伸一郎所長(スラブ・ユーラシア研究センター教授)が「フィンランドと北方経済圏」と題して、北欧諸国・北極圏の経済やロシアとの経済関係について講演しました。

当日は雨天にもかかわらず、昨年の同イベントを上回る135名の参加がありました。質疑応答も積極的に行わ

れ、フィンランド独立100周年を迎えるこの記念の年に、多くの方にフィンランドについて幅広く知っていただける機会となりました。

終了後、講演者と参加希望者による懇親会を開催しました。出席者は、フィンランドについてさらに話し、講演者や参加者との交流が深まるなど、充実した盛況な会となりました。

(国際部国際連携課)



田畑所長の冒頭挨拶



イヤス氏の講演



ボーセン氏によるヨウヒッコの演奏



会場の様子

高等教育研修センターにて各研修等を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、5・6月に以下のとおり研修会等を開催しました。

(高等教育推進機構)

学生及び教職員のメンタルヘルスケアに係る講演会 参加者：102名

開催日：5月15日(月)、6月26日(月)

開催場所：情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室

研修概要：メンタルヘルスにおける予防やケアに役立つポジティブなコミュニケーションスキル、不調のサインと適切なストレス対処方法などを学ぶことを目的として開催。



学生及び教職員のメンタルヘルスケアに係る講演会

講演会「授業準備と運営～学習者の認知・心理的側面から～」 参加者：32名

開催日：6月14日(水)

開催場所：高等教育推進機構S講義棟S5講義室

研修概要：認知心理学、教育心理学の観点から学習者が集中できる授業、理解を促す授業を行うための準備や運営をどのようにすればよいのか、という点について学ぶことを目的として開催。



講演会
「授業準備と運営～学習者の認知・心理的側面から～」

ワークショップ「問いと学習環境を意識した授業づくりの方向性」 参加者：17名

開催日：6月16日(金)

開催場所：情報教育館4階共用多目的教室(2)

研修概要：学生の思考を深め、発言を促すような問いかけを行うための「問いのたて方」や発言しやすい学習環境のあり方などについて学び、授業づくりについて考えることを目的として開催。



ワークショップ
「問いと学習環境を意識した授業づくりの方向性」

第32回北海道大学教育ワークショップ 参加者：17名

開催日：6月23日(金)・24日(土)

開催場所：北広島クラッセホテル

研修概要：採用されてから5年未満の教員を対象に、授業を構成するために必要な教育の基礎を理解すること、アクティブラーニング型授業を設計する方法を理解しシラバスを作成できること、志を同じくする同志と教育について話し刺激し合うことを目的として開催。



第32回北海道大学教育ワークショップ

「製薬企業4社合同 共同研究公募事業説明会」を開催

産学・地域協働推進機構は、5月31日（水）に北海道大学病院臨床研究棟大会議室において、北海道大学病院臨床研究開発センター及び大学力強化推進本部医療・創薬科学プラットフォームと共同で「製薬企業4社合同 共同研究公募事業説明会」を開催しました。

製薬企業等が実施している共同研究

公募事業の内容について、アステラス製薬株式会社、サノフィ株式会社、第一三共株式会社、武田薬品工業株式会社の各担当者からご説明いただきました。また、三菱UFJキャピタル株式会社より、産学官金連携の新しい形のオープンイノベーション事業であるOiDEについてご紹介いただきました。

説明会では講演者と来場者との活発

な質疑応答が行われるなど、盛況な会となりました。

産学・地域協働推進機構では、今後も共同研究公募事業に関する情報提供の機会を設けていきたいと思っております。興味のある方はぜひご参加ください。

（産学・地域協働推進機構）



説明会の様子

（アステラス製薬株式会社 本渡 猛課長）

「設備市場システム 部局等説明会 2017」を開催

創成研究機構グローバルファシリティーセンター（GFC）では、5月12日（金）から6月9日（金）にかけて、各部局において「設備市場システム部局等説明会2017」を開催しました。

設備市場システムとは、平成28年12月に運用開始した、不要な研究物品を出品・購入・譲渡するシステムで、本学のシングルサインオンシステムからログインすることができます。

今回は、教職員向けに出品・購入操作方法を中心に説明することを目的とし、9部局で実施しました。

はじめに、グローバルファシリティーセンター各部門の紹介を網塚 浩GFCセンター長が行い、続いてシステムを

利用した物品の出品→購入→引渡しの流れについて、GFC設備リユース部門のスタッフが説明しました。

説明会の参加者数は教員、職員あわせて延べ124名でした。参加者に実施したアンケートによると「ぜひ利用したいと考えています」「消耗品についてもこのようなシステムがあるとよい

と思いました」「機械としてだけでなくパーツとしても再利用できました」といった声が寄せられました。当日の資料については、これから設備市場システムのサイトに掲載予定です。

（創成研究機構）



説明会（総合博物館）



説明会（獣医学研究院）

化学物質取扱講習会を開催

本学では国立大学法人北海道大学化学物質等管理規程に基づき、本学にて化学物質を取り扱う全ての人を対象として「化学物質取扱講習会」を実施しています。今年度は春季開催分として6月までに札幌キャンパスと函館キャンパスにて計26回（標準版19回、中上級版5回、受講準備編2回）開催しており、延べ1,800人を超える受講者が集まりました。

例年、この講習会では化学物質の考え方から手続きやルール等まで一通りの内容を説明する講習を行ってきましたが、受講者アンケート等を参考に講習内容について吟味を重ねた結果、受講者の背景の違いに合わせた講習の層別化を試みるに至っています。従来から行ってきた化学物質取扱講習会を化学物質取扱講習会（標準版）とした上で、主として更新された内容を説明する化学物質取扱講習会（中上級版）を昨年度から開設しましたが、2年目と

なる今年も「短時間で新しい内容だけ聞けるのが有り難い」などと教職員を中心とした層から益々歓迎されています。さらに、今年度からは「化学を本格的に学んだことがないので標準版の講習を受講する前に、より基礎的な説明が聞きたい」といった要望にお応えして、生物系や物理系など化学系以外の学生を想定した化学物質取扱講習会（受講準備編）を新たに加えました。内容に興味を持った教職員が受講準備編を受講したり、3コース全てを受講

する方がいたり、当初の想定外の受講者もみられましたが、いずれの方も講習内容を現場での化学物質等の取扱いやその指導に役立てていただけるものと確信しています。

なお、本講習会は、3年生後期に研究室へ配属される学生等を対象として秋季にも開催を予定していますので、今回受講できなかった方も含め振って受講いただくようお願いします。

（安全衛生本部）



講演する川上貴教授（安全衛生本部）



会場の様子

人材育成本部国際人材育成プログラム I-HoP で若手研究者向けリーダーシップ研修（英語）を開催

人材育成本部国際人材育成プログラムI-HoPでは、若手外国人研究者（DC, PD）向けに移転可能研究力強化セミナーを開催しています。6月14日（水）に、学術交流会館においてリーダーシップ研修「Step up to Leadership by Dale Carnegie（デール・カーネギー流リーダーシップ入門）」を連携型博士研究人材育成推進室（COFRe）と共催しました。本セミナーは全て英語で実施されるため、COFRe育成対象助教の先生方に加え、今年度より本格的な授業が開始された、新渡戸スクール上級プログラムを受講する日本人、外国人の博士課程学生も参加しました。

博士後期課程1年12名、2年7名、3年6名、ポストドク以上11名の計36名の参加があり、12部局、21カ国の出身国、男性22名、女性14名という多様性豊かな受講者が8時間に及ぶセミナー・ワークショップを体験しました。講師には、世界の一流企業の幹部

教育に100年以上の実績を持つ、米国デール・カーネギー・トレーニング社の日本法人から専属トレーナーのGary Smith氏を迎え、参加者それぞれが所属する研究室において学部生や修士学生などを指導する立場にある博士課程学生やポストドク、助教に求められるリーダーシップ入門、というテーマに絞った講義内容を特別に構成してもらいました。終了後に実施したアンケートによると、リーダーとマネージャーの違い、チーム・メンバーを掌握し、モラル向上を図るための傾聴の

技法などが特に印象に残り、有益と感じたようです。

人材育成本部国際人材育成プログラムI-HoPでは、この他にも若手外国人研究者の専門分野以外の研究力、すなわち移転可能研究力を強化するためのセミナーやワークショップなどを随時実施しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

◆<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>

（人材育成本部）



傾聴の技法をワークショップにより体験する受講者たち

■ 部局ニュース

北海道大学大学院工学院－九州大学大学院工学府 共同資源工学専攻開設式を挙

工学院では、6月23日（金）に工学
研究院B11教室において、北海道大学
大学院工学院－九州大学大学院工学府
共同資源工学専攻開設式を挙

行しました。
共同資源工学専攻は、限られた鉱物
資源を有効に活用して人類社会を将来
にわたって持続・発展させていくた
め、科学・技術と社会・経済の双方に
わたる高い知識と国際性を兼ね備え
た、資源確保の未来を担うグローバル
人材を育成する専攻として、本年4月

1日に九州大学と共同で設置されまし
た。

開設式には、総長をはじめ、両大学
の各専攻関係者、学生約50名が出席し
たほか、文部科学省から松尾泰樹大臣
官房審議官（高等教育局担当）及び高
等教育局専門教育課科学・技術教育係
の野村 舞主任が出席されました。

開設式は、本学の廣吉直樹専攻長の
挨拶で始まり、名和豊春総長、小林幸
徳工学院長から挨拶の後、松尾審議官
から祝辞を賜りました。

引き続き、独立行政法人石油天然ガ
ス・金属鉱物資源機構の辻本崇史理事
から、レアメタルリスク、人材育成に
向けた取り組み、最近のトピックスに
ついて基調講演があった後、活発な質
疑応答が行われました。

最後に、九州大学の渡邊公一郎専攻
長から閉会の挨拶があり、盛会裡に終
了しました。

（工学院・工学研究院・工学部）



挨拶する廣吉専攻長



挨拶する名和総長



挨拶する小林学院長



祝辞を述べる松尾審議官



講演する辻本理事



挨拶する渡邊専攻長

農学研究院と国際食資源学院が北海道と農林・食分野の連携協力に関する覚書調印式を実施

6月12日（月）農学研究院にて、北海道と農林・食分野の連携協力に関する覚書調印式が執り行われました。

本調印の背景として、平成26年6月に農学研究院・農学院・農学部と北海道農政部・水産林務部が「農林分野の連携と協力に関する覚書」を締結し、農業・林業の振興・発展や農林業関係者の人材育成等にこれまで取り組んできたところですが、今年度から国際食資源学院が創設されたため、食関連分野における連携・協力体制の拡大について協議がなされました。北海道としても今回の取組拡大は道産ワインの振興をはじめ、北海道の農業・林業・食関連産業の一層の活性化につながるものであることから協定の範囲を拡大

し、「国際食資源学院」と「経済部」を加え、覚書の再締結を行うことになったものです。

農学研究院と北海道経済部は、これまで「北海道ワインアカデミー」等において「栽培・醸造スキルアップ講

座」を実施するなどの取組を進めてきましたが、今後さらなる連携事業が期待されます。

（農学院・農学研究院・農学部、
国際食資源学院）



（左から）覚書に署名する阿部啓二北海道経済部長、横田 篤農学研究院長、井上 京国際食資源学院長



（左から）署名後、握手を交わす阿部北海道経済部長、横田農学研究院長、井上国際食資源学院長

経済学部成績優秀者表彰式を挙行

6月22日（木）、経済学部会議室において、経済学部「成績優秀者表彰制度」及び「英語力ブラッシュ・アップ・プログラム」による表彰式を行いました。

「成績優秀者表彰制度」は、前年度1年間の履修科目において優秀な成績を取った学生の中から、学部長が学生の模範となるような成績優秀者を選考・表彰するとともに、Dean's List（成績優秀者名簿）に登載し、末永く

その努力と名誉を讃えることを目的としています。今年度は3年次学生10名、4年次学生11名の計21名が受賞しました。

また、「英語力ブラッシュ・アップ・プログラム」は、英語力向上のための継続的・自発的な取り組みに対し助成を行うとともに、TOEIC・TOEFL等の外部試験において、そのスコアの向上が特に顕著であった者に対し、特別表彰を行うものです。今回

は3年次学生1名、4年次学生1名の計2名が受賞しました。

表彰式では、町野和夫経済学部長が受賞者に表彰状と副賞を手渡し、祝福の言葉を述べました。引き続き受賞者と関係教員で懇親会を行い、親睦を深めました。経済学部では、今後も学生の学習意欲向上を促すための取組を行っていく予定です。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



本年度の受賞者

環境科学院で北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催

環境科学院では、6月3日（土）・4日（日）の2日間、北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催しました。

今回で11回目の開催となりましたが、企画の内容は、環境科学の実験の一部を13のテーマで体験する「環境科学を体験しよう」、環境科学院の学生や教員の活動を紹介する「環境科学院ってどんなところ？」などが行われました。

開催期間中、札幌市内・近郊、道外から1,350名以上の親子連れの小学生や中・高・大学生・一般の方などが訪れ、体験型の研究施設公開を楽しめました。

来場者にアンケートを実施したところ、「わかりやすく説明してもらい、

科学がとても身近に感じた」「色々な実験が楽しかった。子供も楽しめる企画が多かった」「レベルの高い展示、幅広い研究分野に驚いた。来年も参加したい」などの高い評価をいただきました。

今後とも、企画の内容に改善を加

え、市民の方々に喜ばれる研究施設公開を開催していきたいと考えています。

（環境科学院・地球環境科学研究院）



科学実験を見学する来場者



地表面のデコボコの3次元解析に用いられるドローンの飛翔風景

6研究所・センター合同で一般公開を開催

創成研究機構、低温科学研究所、電子科学研究所、遺伝子病制御研究所、スラブ・ユーラシア研究センター、産学・地域協働推進機構は、北大祭期間中の6月3日（土）に合同で一般公開を開催しました。当日は、終日気温が低く、また午後からは雨が降ってしまいましたが、小さなお子さんから大人まで、6研究所・センター合わせて4,194名が来場しました。北キャンパスエリアでは、北大生onちゃんがペロタクシーを運転して登場するというサプライズもあり、お子さんだけでなく大人も（スタッフも）楽しい1日を過ごすことができました。

（創成研究機構、低温科学研究所、電子科学研究所、遺伝子病制御研究所、スラブ・ユーラシア研究センター、産学・地域協働推進機構）

創成研究機構

創成研究機構では、「創成研究機構一般公開」を開催しました。当日はお子さん連れのご家族を中心に幅広い年齢の方が訪れ、来場者数は約700名でした。

創成科学研究棟1階レストランポプラで実施したサイエンス・トーク「生命体を探しに行こう！太陽系ツアー2017」では、理学研究院の塚本尚義教授が太陽系の惑星や、イトカワなどの小惑星についてわかり易く解説しました。宇宙好きのお子さんが大勢集まり、講演終了後には多くの質問がありました。「化学物質の指紋－『おなじ/似ている/ちがう』を考える－」では、触媒科学研究所の大谷文章教授が、化学の基本「同定」についてユーモアたっぷりに講演しました。金属酸化物の同定の新しい試みについて、来場者は興味を示していました。

創成科学研究棟1階エントランスホールの展示&体験コーナーでは、先端生命科学研究院ゲン研究室による

「ゲルの名は」、グローバルファシリティセンターによる「君も分析のスペシャリスト」、研究支援室による「クラフトコーナー」が出展しました。クラフトコーナーでは、オリジナルデザインの紙飛行機づくりや、巨大土器への色付けなどを行いました。また、人獣共通感染症リサーチセンターから「人獣共通感染症の克服を目指して」、アイヌ・先住民研究センターから「考古学にふれてみよう」というタイトルで出展協力がありました。各展示コーナーの前には朝から終了時間を過ぎるまで絶えず来場者が訪れ、夢中で実験・観察をするお子さんたちや、展示担当者に熱心に質問をする方々の姿が見られました。クイズラリーも実施し、クイズ正解者に準備した「オリジナル太陽系身長メジャー」は大好評でした。

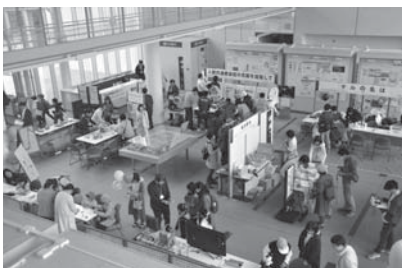
また、見学&体験ツアーとして、「はやぶさ」のサンプル分析を行った「同位体顕微鏡」見学ツアー、創成研

究機構の最先端装置が見られる「オープンファシリティ」見学ツアーを各2～3回実施しました。毎回とも早くから定員に達するなど、来場者の関心の高さがうかがえました。

創成科学研究棟2階ガラス工作室（触媒科学研究所）では、「君もテクニシャン－理化学研究を支えるガラス細工－」と題してガラス工作体験を実施し、参加者は自分でつくったオリジナルのマドラーをお土産に持ち帰りました。

クイズラリー参加者にご協力いただいたアンケート調査では、「5才児でもとても楽しめて、わかりやすかったです！」などの感想がありました。また、対応した教職員からも「子供たちの笑顔が活力になった」などの声があり、今後の研究の励みとなったようです。

創成研究機構では、今後も、市民の皆様と研究者が触れ合える機会の提供に努めて参ります。



沢山の方にご来場いただきました！



考古学コーナーで粘土に土器の文様をつける子供たち



サイエンス・トークでの質問タイムの様子

低温科学研究所

低温科学研究所では、多くの方々に研究所へお越しいただけるよう、大学祭期間中に一般公開を実施しています。また、6研究所・センターが合同で実施したシールラリーに加えて、大学祭で実施されるスタンプラリーにも参加しました。当日は開始の10時とともに、見学を楽しみにしていた市民や、お子さん連れのご家族、小・中学生・高校生等多くの方が来場しました。そして16時の終了時には、来場者数が約860名に達しました。

一般公開では、小さなお子さんにも喜んでいただけるものから、高校生以

上に焦点を合わせた比較的高度な実験・展示、さらに、日常では体験できない -50°C の南極疑似体験まで、計7件の企画を実施しました。参加型の実験・体験では、お子さんのみならず、お父さんやお母さんも真剣に取り組んでいました。また、 -50°C の南極疑似体験には、開始と同時に訪れた方も多数おり、皆様に超低温を体感し、南極の氷床コアを実際に見ていただきました。さらに、展示コーナーでは、各コーナーを回り、熱心に説明を聞いて質問する方も多く、終日大盛況でした。

回答いただいたアンケートには「南極の氷に触れることができ嬉しかった」「説明がわかりやすく楽しかった」「来年もぜひ参加したい」など多くの嬉しいご意見がありました。実験や展示等を通して、多くの方々に低温科学の面白さを知っていただくことはもちろん、対応した教職員も市民の皆様に研究の内容をわかりやすくお伝えすることを学ぶ大変貴重な時間を過ごすことができました。今後は、アンケートの結果を踏まえ、来年度も充実した一般公開ができるよう努力して参ります。



葉っぱの色素観察・しおり制作の様子



「南極・北極・世界の氷河・氷床を学ぶ」展示の様子

電子科学研究所

電子科学研究所では、「電子科学研究所一般公開」を開催しました。当日は雨が降ってしまいましたが、来場者数はここ数年で最多の1,395名（受付集計）となり、電子科学研究所棟内外の展示ブースは常に多くの来場者で賑わっていました。来場者の内訳として、小学生の親子連れが7割と最多でしたが、50代以上の方も2割と多く、幅広い年齢層の方に研究所をアピールする良い機会になりました。

当研究所で行っている「光・物質・生き物・数理・環境」という5つの研究テーマに関する、15の体験型展示と

2件のサイエンス・トーク（市民講座）を行いました。毎年人気を集めている -196°C の液体窒素で凍らせたバナナで釘を打つ体験や巨大シャボン玉作りに加え、「おもしろ光実験！光で遊ぼう」や「へんてこ生物大集合」といったかなり専門的な実験が人気でした。また、「分子の話」（中村貴義教授）、「酸素は敵かな？味方かな？」（BIJU VASUDEVAN PILLAI教授）というテーマで開催した午前中のサイエンス・トークでは、専門家から小学生まで、幅広い年代の方が専門的な話に耳を傾けていました。さらに、研究

所玄関ロビーにて、来場者の方に金薄膜をスパッタコーティングする実験を実演しましたが、小学生から大人まで、綺麗な紫色のプラズマをじっくり観察されていたのが印象的でした。

来場者アンケートでは、「理科の勉強に役立ち良かった」「学生さんがとても一生懸命で楽しかった」という喜びのコメント等、一般公開をより良くするための様々なご意見がありました。いただいたご意見を活かし、来年度も電子科学研究所の研究を伝えられるよう更なる展示等の充実化を図って参ります。



「物質のふしぎ」の展示会場



人気のおもしろ光実験

遺伝子病制御研究所

遺伝子病制御研究所は、特に中学・高校生、そして市民の皆様に向けて一般公開を行いました。今年で6回目の開催となり、411名の方が来場しました。

生命科学の最先端研究を紹介する“サイエンス・トーク”では、3名の先生がそれぞれ「細胞を光らせて免疫を理解する」「がんの治療が変わる～免疫治療の威力と未来」「細胞はどうして癌になるか？」とのタイトルで講演を行いました。立ち見も出るほどの盛況ぶり、多くの聴衆者が熱心に話

を聞く姿はとて新鮮なものでした。“体験学習コーナー”では、8研究室が参加し計14回の体験学習を行いました。参加者は各研究室に赴き研究内容についてスタッフからわかりやすい解説を受け、一部では実際に研究を体験しました。また、“パネル展示コーナー”では4研究室が参加し、来場者は直接研究者と最新の話題を、図解を使って対話し研究内容を楽しく理解していました。

一般公開は、研究者にとって、多くの市民の皆様の日頃の研究成果を公開

し、当研究所の社会的な役割を広く認識していただく貴重な機会です。アンケートでは、多くの市民の皆様からお礼や励ましの言葉があり、今後の研究の活力となりました。昨年からは中学・高校生に生命科学への興味を持ってもらうことに重点を置き広報活動をしています。今後も一般公開のあるべき姿を考え、社会に対し適切に情報を発信し続けることによって、市民の皆様が研究や研究者を身近に感じることができるよう場や機会の提供を目指していきます。



サイエンス・トーク



実験デモンストレーション

スラブ・ユーラシア研究センター

スラブ・ユーラシア研究センターは、「着て、見て、触れて！スラブ・ユーラシアの文化」と題し、一般公開を行いました。当日は不安定な天気でしたが、昨年度よりやや多い343名の来場者がありました。

一般公開では、センタースタッフによる最新の研究成果に関する展示とサイエンス・トークを行い、毎年恒例となっている、大人から子どもまで楽しめるスラブ・ユーラシア地域の絵本の展示、アニメ上映を行いました。本年度はロシアとウクライナ、ウズベキスタンの民族衣装を着用できるコーナーを設け、大勢の来場者が華やかな衣装の色合いやエキゾチックな刺繍や絹織

物に触れて楽しんでいました。また、昨年の「お茶会」コーナーを進化させた「チャイハナでひと休み」企画を設け、中央アジアの陶器や刺繍布で飾られたテーブルで、ロシアとウクライナのチョコレート菓子やウズベキスタンの乾燥果物やアーモンドをつまみ、お茶を飲めるスペースを提供しました。広い構内を歩いて巡ってこられた来場者の方々には大変好評でした。

サイエンス・トークは、岩下明裕教授と写真家の齊藤マサヨシ氏による「ボーダーツーリズムの魅力を写真で語る：稚内・サハリンからのメッセージ」、長縄宣博准教授による「ロシア革命と現代世界」という2本立てでし

た。サハリンに何度も通い雄大な自然やそこに暮らす人々、日本領だった時代を忍ばせる遺構などを写真に写してきた齊藤氏による稚内・サハリン旅行の体験談と、日本各地でボーダーツーリズムと地域起こしを連動させている岩下教授の軽妙な掛け合いに、来場者は引き込まれていました。長縄准教授は、1917年のロシア革命からちょうど百周年の今、革命の動乱を生きた人々の経験に私たちが学べることについて語りかけ、来場者との活発な意見交換が行われました。



サイエンス・トークの様子



センタースタッフがウズベキスタンの民族衣装でおもてなし

産学・地域協働推進機構

昨年に引き続き、産学・地域協働推進機構一般公開をフード&メディカルイノベーション (FMI) 国際拠点棟で行いました。あいにくの天気の中、500名を超える多くの市民の方々が来場しました。参加者には、小さなお子さんを連れてご家族の姿が多く見受けられました。

一般公開では、本学から社会実装された様々な研究成果のうち3Dスキャンデータから体の歪みを測定する装置や北海道大学COI「食と健康の達人拠点」の研究成果などの紹介とともに、

野菜などの色素がpHによって色彩変化する性質を利用した「お絵かき体験」やコンブなどの褐藻類に含まれるアルギン酸がカルシウムと接触することでゲル化する性質を利用した「カラフル人工イクラ作り」といった食品成分を使った科学体験、食品になったつもりで消化管を通り抜ける「消化管体験ツアー」を行いました。今年本学に入学したonちゃんを含め多くの方に様々な体験を楽しんでいただけたと思

います。

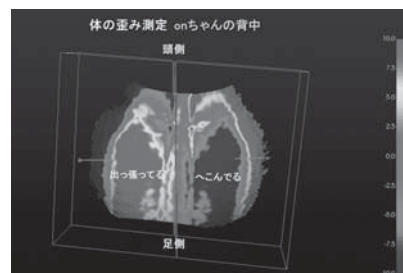
産学・地域協働推進機構では、本学の研究成果の社会実装に向けた産学協働及び地域の課題解決に向けた地域協働を推進するとともに、これらの産学・地域協働の推進に資する人材を育成し、もって産業等の発展及びイノベーションの創出に資することを目的としており、FMI国際拠点棟を一般の方に対して常に開放しています。今後も、市民の皆様と研究者が触れ合える機会・場の提供を行ってまいります。



人工イクラ体験



消化管体験ツアー



onちゃんの背中

薬学部で薬害をテーマにFD研修会を開催

薬学部では6月12日(月)臨床薬学講義室において、本年度第1回FD研修会を薬学部2年次「薬学概論」の講義を兼ねて開催しました。今回のテーマは、薬学関連の教育・研究を担う薬学研究院・薬学部の教員にとって大変重要な薬害で、本学薬学部のOBの東京理科大学薬学部講師の佐藤嗣道先生に、約3時間にわたってご講演いただきました。

佐藤先生はご自身がサリドマイド被害者であり、また、医薬品リスク管理及び社会薬学を専門とする研究者であります。本講演では、その両者の立場から、薬害の歴史、要因、社会的な問題と現状、さらに、いかにしてそのリスクを管理すべきかについて、ご自身の考えを交えながらお話いただきました。サリドマイド禍、スモン、輸血によるエイズ感染、予防注射による肝

炎感染などの薬害をテーマとして、科学的データと客観的事実に基づいて大変わかりやすくご説明いただきました。講演を通して、ドイツや日本で多数の被害者が出たサリドマイド禍を米国では行政の適切な対応でほぼ未然に防がれたという事実にもかかわらず、その後も、不適切な企業や行政の対応が薬害を発生させ、あるいは被害を拡大させたことをよく理解することができました。薬害を起こすのも防ぐのも

人であることを肝に銘じ、薬学に携わる者は教育・研究に取り組まなければならないことを改めて学ぶ機会となりました。

薬学研究院・薬学部の教員にとって、またこれから薬学を学ぶ2年次学生にとっても、大変意義深いFD研修会・講義となりました。

(薬学研究院・薬学部)



講演する佐藤先生



熱心に耳を傾ける参加者

保健センターで第5回健康キャンパス北大「健康づくり支援セミナー」を開催

保健センターでは、6月23日（金）に保健センターラウンジにおいて、第5回健康キャンパス北大「あなたのその頭痛、大丈夫ですか?!」を開催し、学生6名、教職員13名の計19名の参加がありました。

今回は、当センター兼任の神経内科の専門医である加納崇裕助教に講演をお願いし、頭痛の種類や対処・予防法など広範囲にわたり説明いただきました。

また、神経内科で扱う、脳血管障害・てんかん・認知症・神経難病等についても話が及び、更に、様々な頭痛

の話では、アイスクリーム頭痛、ワインと頭痛など、身近に起こる頭痛についても、わかりやすく解説いただきました。

今回のセミナーでは、事前アンケートで質問を募集したところ、多くの質問が寄せられ、参加者とやり取りしながら詳しい回答がなされ、大変好評でした。参加した教職員・学生は熱心に受講し、質疑も活発に行われ、会場は熱気に包まれていました。事後のアンケートでは、「頭痛について、系統立てて説明いただきありがたかった」「専門家の方に気軽に話していただ

き、質問にも丁寧に答えていただき大変満足です」などに加え、「身近な体の悩みや、健康問題について解決法を知る機会になるので、定期的を開催されると嬉しい」「または非参加したい」などの声が寄せられ、大変有意義なセミナーでした。

本センターでは、今後も継続して教職員・学生の皆様のニーズに応じた講習を企画・実施していく予定です。

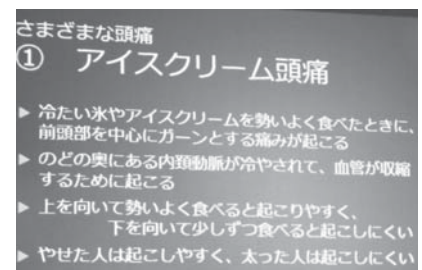
（保健センター）



会場の様子



講演する加納助教



アイスクリーム頭痛のスライド

突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点が「北海道防災・減災シンポジウム2017」を開催

6月15日（木）、防災・減災に関する文理連携教育研究プロジェクトである北海道大学突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点では、昨年の台風災害を振り返り、得られた教訓から、今後の北海道における防災・減災対策のあり方・土地利用のあり方を考えることを目的に「北海道防災・減災シンポジウム2017～2016年8月豪雨災害から我が国の国土形成を考える～」を開催しました。

シンポジウムでは、特別講演として、国土審議会会長である、公益財団法人名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター長の奥野信宏先生から特別講演「大規模自然災害と国土政策」と題し、ナショナル・レジリエンス（国土強靱化）及び防災・減災への国土政

策の考え方・施策の動向についてご講演いただきました。続いて、本学の研究者による昨年の台風災害の分析結果に関する基調講演として、小山内信智農学研究院特任教授から「2016年8月豪雨による土砂災害」、また、泉典洋工学研究院教授から「2016年8月豪雨災害による帯広十勝の洪水被害」を行いました。

後半は、高松 泰公共政策大学院客員教授をコーディネーターに、国土交通省北海道開発局の米津仁司防災課長、気象庁札幌管区気象台の山下龍平防災部次長、北海道庁の辻井宏文危機対策課長からの防災・減災に関する取組紹介を踏まえたパネルディスカッションを行い、参加者と災害に対する知見の共有を図りました。

出水期・台風期を迎える前の開催であり、参加者・報道機関の関心も高く、約200名の参加者、新聞社5社・テレビ局3社からの取材がありました。

（農学院・農学研究院・農学部）



奥野先生による特別講演



小山内特任教授による基調講演



泉教授による基調講演



パネルディスカッションの様子

北大と東北大のリーディングプログラムが合同シンポジウムを開催

博士課程教育リーディングプログラム「物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム^{*}（以下ALP）」は、東北大学のリーディングプログラム「マルチディメンション物質工学リーダー養成プログラム（以下MD）」と共催で第3回合同シンポジウムを開催しました。このシンポジウムは宮城県刈田郡のラフォーレ蔵王リゾート&スパを会場として、5月19日（金）・20日（土）に行われました。

両プログラムは、いずれも平成25年度に博士課程教育リーディングプログラムの複合領域型（物質）に採択されました。両プログラムには、分野横断的に物質・材料科学を学び、博士号取得後には社会で広く活躍する人材を育成することを目的としているという共通点があります。これまでに、互いの活動成果を共有し、協力関係を構築するための合同シンポジウムを2回共同

開催しています。今回は、過去の合同シンポジウムで構築された協力関係を継続し、今後の両プログラムの活動をさらに発展させることを目的としました。

19日（金）の開会の際には、ALPの石森浩一郎コーディネーターとMDの長坂徹也コーディネーターが、平成28年度までのそれぞれのプログラムの活動の概要報告を行いました。続いて行われた両プログラムの学生による報告会では、それぞれのプログラムで実施した活動内容の報告が行われました。ALPからは、2名の学生が研究室インターンシップと企業インターンシップについて報告しました。その後、前回の合同シンポジウムでALPとMDが共同で作成することが提案された情報共有ウェブサイトについて、進捗状況の報告が行われました。2日間にわたって計5時間行われた学生企画のワークショップでは、「僕らの家

電会議～新型製品の立案～」と題して画期的な新製品の立案コンペを行い、社会の抱える潜在的な課題に着目したアイデアが多く出されました。また、19日（金）の夕食後には学生によるポスター発表が行われ、会場では互いの研究について熱い議論が交わされました。シンポジウムの最後には、両プログラムのコーディネーターからの講評があり、今後も継続して合同シンポジウムを行っていくことが確認されました。来年は本学で合同シンポジウムを開催する予定です。

^{*}物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム（ALP）

総合化学院総合化学専攻、生命科学院生命科学専攻、環境科学院環境物質科学専攻、理学院数学専攻、工学院量子理工学専攻に所属する大学院生を対象とする5年一貫の大学院教育プログラム。

（総合化学院）



活動報告会の様子



学生企画のワークショップの様子



ポスター発表の様子



第3回合同シンポジウムの集合写真（写真提供 東北大学）

■お知らせ

「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成28年度）」の概要について

独立行政法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表に関する政府決定等及び国立大学法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）に基づき、本学の役員の報酬等、職員の給与水準及び総人件費について、平成28年度分の概要をお知らせします。

平成28年度における役員の報酬等の支給状況

	役員10人（法人の長，理事（7人），監事（2人））
年間報酬等の総額	147,142千円

平成28年度における職員の給与水準

	比較対象人員数（注）	平均年齢	平成28年度 年間給与額（平均）
事務・技術職員	926人	41.2歳	5,547千円
教育職員（大学教員）	1,317人	47.6歳	8,482千円
医療職員（病院看護師）	413人	39.7歳	5,350千円

注）「比較対象人員数」は、平成29年4月1日現在、在職している常勤職員（平成28年度途中の採用者及び異動者等を除く。）

総人件費

区 分	平成28年度	平成27年度	比較増△減	
給与，報酬等支給総額（A）（注1）	千円 30,162,062	千円 29,854,384	千円 307,678	% 1.0
退職手当支給額（B）（注1）	千円 2,538,443	千円 1,639,705	千円 898,738	% △ 54.8
非常勤役員等給与（C）（注2）	千円 13,245,760	千円 13,404,356	千円 △ 158,596	% △ 1.2
福利厚生費（D）（注3）	千円 6,096,836	千円 5,874,202	千円 222,634	% 3.8
最広義人件費（A + B + C + D）	千円 52,043,103	千円 50,772,648	千円 1,270,455	% 2.5

注1）「給与，報酬等支給総額」及び「退職手当支給額」は、常勤役員及び常勤職員に支払われた報酬（給与）、賞与、その他の手当の総額並びに退職手当の総額

注2）「非常勤役員等給与」は、非常勤役員及び非常勤職員等に支払われた給与及び退職手当の総額

注3）「福利厚生費」は、全ての役員及び職員（非常勤職員等を含む。）に係る法定福利費と法定外福利費の総額

※本概要の詳細については、本学ホームページ（広報・公開，情報公開，法令等に基づく公表事項，その他公表事項）に掲載しています。（<http://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/other/>）

（総務企画部人事課）

第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

国立大学法人等評価は、国立大学法人評価委員会が、大学の教育研究の特性に配慮しつつ、各法人の教育研究や業務運営の状況について法人毎に定められた中期目標の達成状況を5段階で評価^{*}するものです。

この度、国立大学法人評価委員会から第2期中期目標期間（平成22～27年度）の業務の実績に関する評価結果が通知されました。

本学は、「教育に関する目標」「研究に関する目標」「社会連携・社会貢献、国際化等に関する目標」「業務運営の改善及び効率化」「財務内容の改善」及び「その他業務運営」について「良好」との評価、また「自己点検・評価及び情報提供」について「非常に優れている」との高い評価を得ました。

なお、7項目全てにおいて「良好」以上の評価を得たのは、本学を含め90法人中4法人でした。

第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果概要

項	目	評	価	備	考
教育研究等の質の向上	教育に関する目標	良好	である	「教育研究等の質の向上」の3項目において「良好」以上の評価を得たのは90法人中7法人	
	研究に関する目標	良好	である		
	社会連携・社会貢献、国際化等に関する目標	良好	である		
業務運営・財務内容等の状況	業務運営の改善及び効率化	良好	である	「自己点検・評価及び情報提供」について「非常に優れている」の評価を得たのは90法人中7法人	
	財務内容の改善	良好	である		
	自己点検・評価及び情報提供	非常に優れている			
	その他業務運営	良好	である		

^{*} 5段階評価……「非常に優れている」「良好」「おおむね良好」「不十分」「重大な改善事項」

(総務企画部企画課)

夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について

本年度も、夏季期間における連続休暇取得の奨励及び省エネルギー対策のため、工学系建物の閉鎖を下記のとおり実施しますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

記

1. 実施期間・体制について

期 間：8月11日（金・祝）～16日（水）

体 制：原則として休日の期間と同様の体制とします。

2. 郵便物・宅配便について

郵便物：局留となりますので、受領及び発送等の取り扱いは、8月17日（木）からとなります。

宅配便：原則として警務員室にて受理・保管となります。

3. 緊急時の体制について

緊急時の対応は、原則として「夜間、休日等における緊急連絡体制」によります。

詳細については、工学系事務部総務課（TEL：011-706-6115）までお問い合わせください。

（工学院・工学研究院・工学部，情報科学研究科，量子集積エレクトロニクス研究センター）

■ 博士学位記授与

6月30日(金)に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は24人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は4人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名	
	氏 名			
博士(文学)	やま 山	だ 田	のぞみ 狩猟塔トーレ・デ・ラ・パラダの絵画装飾研究-16, 17世紀のスペイン宮廷における君主教育と宮廷絵画ディエゴ・ベラスケスとの関連から- 主査:教授 谷古宇 尚	
博士(法学)	キョウ 邱	ショウ 昌	モ 茂 中国における環境公益訴訟の現状と課題-「環境損害」の回復をめぐる- 主査:教授 尾崎 一郎	
	ひら 平	さわ 澤	たく 卓	と 人 表現規制としての標識法とその憲法的統制 主査:教授 田村 善之
	ルベン エンリケ Ruben Enrique ロドリゲス サムディオ Rodriguez Samudio		NON-ECONOMIC LOSSES UNDER JAPANESE LAW FROM A COMPARATIVE LAW PERSPECTIVE (比較法の観点からの日本法における非経済的損害の検討) 主査:教授 會澤 恒	
博士(医学)	うえ 植	まつ 松	あき 明	こ 子 時間情報処理における小脳の役割 主査:教授 渡邊 雅彦
	うじ 氏	いえ 家	いん 韻	きん 欣 表皮水疱症患者における表皮関連ケモカインの解析 主査:教授 田中 真樹
	くすのき 楠	よし 由	ひろ 宏	MPO-ANCA関連血管炎に対するPeptidylarginine deiminase阻害薬の効果および好中球細胞外トラップの血管内皮細胞障害に対するリコンビナントトロンボモジュリンの効果 主査:教授 清水 伸一
	くま 隈	もと 元	はる 晴	こ 子 幼若期ストレスによるラットの社会性行動障害に関する研究 主査:教授 岩永 敏彦
	こう 河	の 野	く 公	み 美 北海道大学の留学生のうつ傾向に関する研究 主査:教授 大滝 純司
	さ 佐	とう 藤	ち 千	ぐさ 草 卵膜由来間葉系幹細胞培養上清によるケロイド線維芽細胞に対する抑制効果の検討 主査:教授 石田 晋
	もり 森		たかし 崇	嗅神経芽細胞腫ならびに低酸素領域を有する転移性脳腫瘍における放射線治療に関する研究 主査:准教授 志賀 哲
	やぶ 藪	さき 崎	さと 哲	し 史 FDG-PET/CTおよび造影CTを用いたIgG4関連疾患の画像所見の検討 主査:教授 渥美 達也
博士(獣医学)	よこ 横	やま 山	のぞむ 望 A study on the colorectal mucosal immunopathology of inflammatory colorectal polyps in dogs - analyses of innate immunity and epithelial barrier (炎症性結直腸ポリープの犬における結直腸粘膜の免疫病態に関する研究-自然免疫と上皮バリアの解析) 主査:教授 滝口 満喜	
博士(情報科学)	た 田	ばた 畑	こう 公	し 次 社会的ネットワークにおける効率的な重要ノードの発見の手法とその応用 主査:准教授 中村 篤祥
	つ 子		カン 瀚	Exploring the near-field properties on coupled plasmonic nanostructures by photoemission electron microscopy (光電子顕微鏡によるプラズモン結合モードの近接場特性に関する研究) 主査:教授 三澤 弘明

博士 (理学)	うえ き ひかる 植 木 輝	Microscopic Theory of the Flux-Flow Hall Effect in Type-II Superconductors (第二種超伝導体における渦糸フローホール効果の微視的理論) 主査：准教授 北 孝文
	ソハイル キーガン Sohail Keegan ピント PINTO	Taxonomy and evolution of marine benthic dinoflagellates from sub-tropical Japan (日本の亜熱帯域の海産底生性渦鞭毛藻類の分類および進化に関する研究) 主査：教授 堀口 健雄
博士 (教育学)	やま もと たけ し 山 本 武 志	医療プロフェッショナルリズム概念の検討および評価尺度の開発とその教育実践への応用 主査：教授 大塚 吉則
博士 (工学)	しげ まつ きょう へい 重 松 恭 平	トポロジカル光波を用いたコヒーレント分光法の確立 主査：教授 戸田 泰則
	なが さわ かず ゆき 長 澤 和 幸	塑性率を考慮した原子力発電所の耐震設計に関する研究 主査：特任教授 奈良林 直
	ワ ン ジンユアン WANG Jinyuan	Laboratory study on mechanical properties of frozen clay through state concept (土骨格状態概念に基づく凍結粘土の力学的挙動の実験的研究) 主査：准教授 西村 聡
博士 (理学)	いづ くら きまる 岩 倉 優	新規なジャガイモシストセンチュウふ化促進物質の探索研究 主査：教授 及川 英秋
	きね ぶち まさ ひこ 杵 渕 政 彦	Total Synthesis of Psiguadial B (サイグアジアル B の全合成) 主査：教授 鈴木 孝紀
	さい とう さ や か 齋 藤 沙 弥 佳	Study on the Endocytic Pathway in Cell Competition-Based Apical Elimination of Transformed Cells from the Epithelium (細胞競合による変異細胞の上皮層頂端側排除におけるエンドサイトーシス経路の研究) 主査：教授 坂口 和靖

論文博士

博士の専攻 分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士 (獣医学)	フ ン フ ァ FUANGFA ウ ト ラ ラ キ UTRARACHKIJ	Genetic Diversity and Antimicrobial Resistance Determinants of Clinical <i>Salmonella</i> Enteritidis in Thailand (タイで患者から分離された <i>Salmonella</i> Enteritidisの遺伝学多様性と抗菌薬耐性決定因子) 主査：教授 鈴木 定彦
	もり した けいたろう 森 下 啓太郎	Application of contrast-enhanced ultrasonography of the hepatic vein for the differentiation of canine diffuse liver disease (犬のびまん性肝疾患の鑑別における肝静脈造影超音波検査の応用) 主査：教授 滝口 満喜
博士 (水産科学)	しま だ ひろし 嶋 田 宏	北海道オホーツク海沿岸における麻痺性貝毒の発生予測に関する生物海洋学的研究 主査：教授 和田 哲
博士 (保健科学)	ジェフリー ワ ン グ Jeffrey WANG	Imaging biomarkers of breast cancer derived from breast parenchyma (乳腺から派生した乳がんのイメージバイオマーカー) 主査：教授 伊達 広行

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成29年 6月13日）

- 議 案・総合IR室の改組について
- ・平成29年度内部統制システムモニタリングテーマ候補について
- 協議事項・平成29年度に実施する法科大学院認証評価の自己評価書について
- ・平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
 - ・平成30年度概算要求事項について
 - ・平成28年度決算について
 - ・諸規則の制定及び一部改正について
 - ・就業規則関連規程の一部改正について
- 報告事項・第2期中期目標期間の業務の実績に関する評価結果について
- ・キャンパス・クリーン・デーの実施結果について
 - ・平成29年度総長室等事業推進経費について
 - ・平成28年度病院収支の概要について
-

教育研究評議会（平成29年 6月21日）

- 議 題・経営協議会の学外委員について
- ・平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
 - ・平成29年度に実施する法科大学院認証評価の自己評価書について
 - ・平成30年度概算要求事項について
 - ・諸規則の制定及び一部改正について
- 報告事項・予算編成検討部会及び教員人件費削減検討部会の検討状況について
- ・総合IR室の改組について
 - ・第2期中期目標期間の業務の実績に関する評価結果について
 - ・寄附分野の設置について
-

経営協議会（平成29年 6月23日）

- 議 題・平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
- ・平成28年度決算について
 - ・平成30年度概算要求事項について
- 報告事項・第2期中期目標期間の業務の実績に関する評価結果について
- ・平成29年度国立大学法人機能強化促進費（補助金）の交付内定について
 - ・北海道大学における財政健全化の方向性について
- そ の 他・平成28年度北海道大学ファクトブックについて
-

役員会（平成29年 6月26日）

- 議 案・平成29年度に実施する法科大学院認証評価の自己評価書について
- ・平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
 - ・平成28年度決算について
 - ・諸規則の制定及び一部改正について
 - ・データ関連人材育成プログラムの申請について
 - ・平成30年度概算要求事項（施設整備事業）について
- 報告事項・役職員の報酬・給与等の水準の公表について
-

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

北海道大学国際連携研究教育局運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成29年6月20日海大達第182号)

国際連携研究教育局運営委員会の審議事項に教員の人事に関する事項を加えることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学総長選考会議規程の一部を改正する規程

(平成29年6月23日海大達第183号)

本年4月1日付けで、本学に政策調整室を設置したことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学病的材料検査に関する規程の一部を改正する規程

(平成29年7月1日海大達第184号)

歯学部で行う組織検査について、医学部で行う同検査と同一の水準となったため、当該検査料を医学部で行うものと同額に引き上げるとともに、歯学部で行う病的材料検査の種目を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学総合IR室規程の一部を改正する規程

(平成29年7月1日海大達第185号)

本年7月1日付けで、総合IR室の改組を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程

(平成29年7月1日海大達第186号)

本年7月1日付けで高等教育推進機構高度教学IRセンターを廃止することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(平成29年7月1日海大達第187号)

北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター規程

(平成29年7月1日海大達第188号)

北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター運営委員会規程

(平成29年7月1日海大達第189号)

国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程

(平成29年7月1日海大達第190号)

国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程の一部を改正する規程

(平成29年7月1日海大達第191号)

国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程

(平成29年7月1日海大達第192号)

国立大学法人北海道大学文書処理規程の一部を改正する規程

(平成29年7月1日海大達第193号)

国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程

(平成29年7月1日海大達第194号)

北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程

(平成29年7月1日海大達第195号)

本年7月1日付けで、本学に数理・データサイエンス教育研究センターを設置することに伴い、所要の定め及び改正を行ったものです。

■ 研修

研修名：平成29年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修

開催期間：平成29年 6月12日～14日

開催場所：北海道大学百年記念会館大会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の中堅職員としての立場と責務を自覚させるとともに、職務に対する知識を深め、企画力及び問題解決能力の向上を図ることを目的とする。



特別講話（徳久治彦理事・事務局長）



講義・実習（特定非営利活動法人 手と手）



演習・グループワーク（株式会社コム）



演習風景

（総務企画部人事課）

表敬訪問

海外

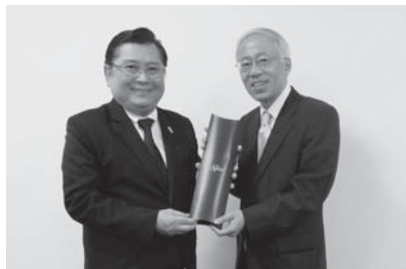
年月日	来 訪 者	
29.6.6	国立東華大学（台湾） Kurtis Jai-Chyi Pei 環境学院長	両大学の交流に関する懇談
29.6.8	Richard Court 駐日オーストラリア大使	両国の交流に関する懇談
29.6.23	ラジャマンガラ工科大学 タンヤプリ校（タイ） Prasert Pinpathomrat 学長	両大学の交流に関する懇談
29.7.3	Jean-François Paroz 駐日スイス大使	両国の交流に関する懇談



国立東華大学（台湾）
Kurtis Jai-Chyi Pei 環境学院長(前列中央左)



Richard Court 駐日オーストラリア大使(中央)



ラジャマンガラ工科大学 タンヤプリ校（タイ）
Prasert Pinpathomrat学長（左）



Jean-François Paroz 駐日スイス大使
(前列中央)

(国際部国際連携課)

■人事

平成29年6月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 大学院医学研究院助教	都 築 慎 也	採用

平成29年6月21日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【経営協議会委員】 (期間：平成31年6月20日まで)	辻 泰 弘	北海道副知事

平成29年6月30日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (辞職)	加 納 崇 裕	大学院医学研究院助教
【課長・事務長・室長】 (任期満了)	荒 川 強	財務部主計課財務管理室長
【係員】 (退職)	吉 田 一 幸	施設部環境配慮促進課
【技術職員等】 (辞職)	佐 藤 亜 弓 田 邊 裕 紀 子 宮 越 文 菜	北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師

平成29年7月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【部局長・施設長等】 数理・データサイエンス教育研究センター長 (期間：平成31年3月31日まで)	長谷山 美 紀	国際連携研究教育局・大学院情報科学研究科教授
【教授】 大学院理学研究院教授 北海道大学病院教授 国際連携研究教育局教授 国際連携研究教育局教授 国際連携研究教育局・大学院先端生命科学研究院教授	野 壽 龍 介 南須原 康 行 ALLAN JAMES ZILBERSTEIN SHLOMO 黒 川 孝 幸	大学院理学研究院准教授 北海道大学病院准教授 採用 採用 国際連携研究教育局・大学院先端生命科学研究院准教授
【准教授】 触媒科学研究所准教授 北方生物圏フィールド科学センター准教授 (転出) 岩手大学農学部附属動物病院准教授 愛媛大学大学院医学系研究科准教授	宋 志 毅 福 澤 加里部 星 野 有 希 川 上 良 介	触媒科学研究所助教 北方生物圏フィールド科学センター助教 大学院獣医学研究院附属動物病院助教 電子科学研究所助教
【講師】 大学院理学研究院講師 大学院理学研究院講師 遺伝子病制御研究所講師	岡 本 崇 小 林 正 人 昆 俊 亮	大学院理学研究院助教 大学院理学研究院助教 遺伝子病制御研究所助教

<p>【助教】 大学院医学研究院助教 大学院獣医学研究院附属動物病院助教 (転出) 名古屋大学大学院理学研究科助教 東京医科歯科大学助教</p>	<p>水 柿 秀 紀 森 下 啓太郎 小 原 圭 介 黒 嶋 雄 志</p>	<p>採用 採用 大学院薬学研究院助教 大学院歯学研究院助教</p>
<p>【課長・事務長・室長】 財務部主計課財務管理室長</p>	<p>若 月 桂 一</p>	<p>北洋銀行</p>
<p>【補佐】 財務部調達課課長補佐 学務部学務企画課課長補佐 工学系事務部經理課課長補佐 (出向復帰) 財務部資産運用管理課課長補佐 国際部国際教務課課長補佐 (出向) 北海道教育大学財務部財務課副課長</p>	<p>馬 場 勝 浩 岩 松 正 一 三 浦 征 則 對 馬 秀 俊 島 谷 知 克 小笠原 美 勝</p>	<p>財務部資産運用管理課課長補佐 工学系事務部經理課課長補佐 学務部学務企画課課長補佐 北海道教育大学財務部財務課副課長 室蘭工業大学経営企画課副課長 財務部調達課係長</p>
<p>【係長】 総務企画部広報課係長 総務企画部情報企画課係長 財務部經理課係長 財務部調達課係長 財務部調達課係長 研究推進部研究振興企画課係長 研究推進部研究支援課係長 環境科学事務部係長 理学・生命科学事務部事務課係長 教育学事務部係長 経済学事務部係長 医学系事務部会計課係長 医学系事務部会計課係長 歯学事務部係長 北海道大学病院総務課係長 北海道大学病院管理課係長 北方生物圏フィールド科学センター係長 北方生物圏フィールド科学センター係長 (出向復帰) 財務部主計課財務管理室係長 財務部調達課係長 (出向) 帯広畜産大学戦略企画課決算係長</p>	<p>五十嵐 由 美 笹 川 文 子 佐 藤 永 晃 亀 山 典 生 澁 谷 勇 一 大 桃 琢 磨 戸 來 茂 樹 大久保 恵 谷地中 大 介 高 橋 宏 市 安 宅 優 子 佐々木 晃 裕 藤 沢 一 教 富 樫 弘 隅 田 由美子 築 田 和 人 福 井 陽 一 林 寛 氏 家 智 弘 長谷川 尚 雄 大 内 聖 和</p>	<p>理学・生命科学事務部事務課係長 医学系事務部会計課係長 研究推進部研究振興企画課係長 医学系事務部会計課係長 財務部經理課係長 財務部主計課財務管理室係長 財務部調達課係長 研究推進部研究支援課係長 総務企画部人事課主任 経済学事務部係長 歯学事務部係長 教育学事務部係長 北方生物圏フィールド科学センター係長 環境科学事務部係長 総務企画部広報課係長 総務企画部情報企画課係長 北海道大学病院総務課係長 北海道大学病院管理課係長 北見工業大学財務課係長 帯広畜産大学戦略企画課決算係長 北海道大学病院経営企画課主任</p>
<p>【主任】 財務部調達課主任 学務部学務企画課主任 文学研究科・文学部主任 法学研究科・法学部主任 農学・食資源学事務部主任 工学系事務部総務課主任 獣医学系事務部主任 北海道大学病院経営企画課主任 北海道大学病院経営企画課主任 北海道大学病院管理課主任</p>	<p>横 山 隆 宏 小田桐 誠 富 樫 理 香 山 本 祐 巳 山 本 英 子 上 平 聖 子 左 海 賢 志 伊 藤 和 矢 有 田 貴 博 宮 坂 光 春</p>	<p>財務部主計課主任 工学系事務部經理課主任 工学系事務部総務課主任 医学系事務部会計課主任 文学研究科・文学部主任 法学研究科・法学部主任 監査室主任 財務部主計課主任 財務部經理課主任 薬学事務部主任</p>

【係員】		
監査室	蒔田均志	北海道大学病院経営企画課
総務企画部広報課	中村史絵	施設部施設企画課
総務企画部人事課	川合宏典	獣医学系事務部
財務部主計課	金川真梨亜	北海道大学病院経営企画課
財務部主計課	室井俊介	北海道大学病院経営企画課
財務部経理課	河内洋祐	北海道大学病院管理課
財務部調達課	坂田諒	工学系事務部経理課
函館キャンパス事務部	砂田朔	北海道大学病院管理課
理学・生命科学事務部事務課	藤田こゆき	財務部調達課
理学・生命科学事務部事務課	古川瑞枝	小樽商科大学学術情報課
薬学事務部	高村晃平	財務部調達課
工学系事務部経理課	細木杏奈	北海道大学病院管理課
工学系事務部経理課	山内隆嗣	函館キャンパス事務部
工学系事務部情報科学研究科事務課	大橋千怜	理学・生命科学事務部事務課
医学系事務部会計課	袴田梨紗	財務部調達課
獣医学系事務部	小原大和	農学・食資源学事務部
北海道大学病院経営企画課	菊地修平	学務部学務企画課
北海道大学病院経営企画課	土谷孝文	工学系事務部情報科学研究科
北海道大学病院管理課	猪瀬昌	理学・生命科学事務部事務課
北海道大学病院管理課	加藤隆之	獣医学系事務部
(転出)		
小樽商科大学学術情報課	阿部康二	理学・生命科学事務部事務課

新任部局長等紹介

平成29年7月1日付

数理・データサイエンス教育研究センター長に



はせがま みき
長谷山 美紀 教授

平成29年7月1日付けで数理・データサイエンス教育研究センターが設置され、センター長として長谷山美紀教授が発令されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

略 歴

昭和61年3月 北海道大学工学部卒業
昭和63年3月 北海道大学大学院工学研究科修士課程修了
平成元年8月 北海道大学大学院工学研究科博士後期課程中退
平成元年8月 北海道大学電子科学研究所助手
平成5年9月 博士（工学）（北海道大学）
平成6年1月 北海道大学工学部・大学院工学研究科助教授
平成7年10月 米国ワシントン大学客員准教授
平成16年4月 北海道大学大学院情報科学研究科助教授
平成18年4月 北海道大学大学院情報科学研究科教授
平成25年4月 北海道大学総長補佐
平成29年4月 北海道大学総合IR室副室長、
北海道大学人材育成本部女性研究者支援室室長

新任部課長等紹介

平成29年7月1日付



財務部主計課財務管理室長に

わかつき けいいち
若月 桂一 氏

昭和46年4月2日生
平成7年3月 北海道大学水産学部卒業
平成7年4月 札幌銀行札幌東支店
平成12年7月 札幌銀行月寒支店
平成15年1月 札幌銀行ご相談センター
平成16年12月 札幌銀行業務部
平成17年7月 札幌銀行栄町支店
平成20年1月 札幌銀行栄町支店長代理
平成20年10月 北洋銀行麻生東支店課長
平成21年8月 北洋銀行新稚内支店課長
平成22年6月 北洋銀行稚内支店課長
平成26年6月 北洋銀行本店営業部法人営業部次長

新任教授紹介

平成29年7月1日付



理学研究院教授に

のぞき りゅうすけ
野崎 龍介 氏

物理学部門電子物性物理学分野

生年月日

昭和32年12月4日

最終学歴

早稲田大学大学院理工学研究科博士後期課程修了(昭和62年3月)
理学博士(早稲田大学)

専門分野

複雑液体物理学



北海道大学病院教授に

なすほら やすゆき
南須原 康行 氏

医療安全管理部

生年月日

昭和38年2月11日

最終学歴

北海道大学医学部医学科卒業(昭和63年3月)
医学博士(北海道大学)

専門分野

呼吸器内科学, 医療安全管理学



国際連携研究教育局教授に

シュロモ ジルバースタイン
Shlomo Zilberstein 氏

ビッグデータ・サイバーセキュリティグローバルステーション
マサチューセッツ大学アマースト校ユニット

生年月日

1960年9月11日

最終学歴

米国カリフォルニア大学バークレー校大学院
計算機科学専攻博士課程修了(1993年5月)

専門分野

人工知能, 自動計画, 決定理論, 自律エージェントとマルチエージェントシステム,
資源制約付推論, メタ認知, ヒューリスティック探索, 組み合わせ最適化, 強化学習



国際連携研究教育局教授に

ジェームズ アラン
James Allan 氏

ビッグデータ・サイバーセキュリティグローバルステーション
マサチューセッツ大学アマースト校ユニット

生年月日

1961年6月19日

最終学歴

米国コーネル大学大学院計算機科学科
博士課程修了(1995年1月)

専門分野

情報検索, イベントベース情報組織化,
最小インタラクティブ検索と組織化



国際連携研究教育局・
先端生命科学研究院教授に

くろかわ たかゆき
黒川 孝幸 氏

先端融合科学研究部門ソフト
& ウェットマターの科学分野

生年月日

昭和50年5月15日

最終学歴

北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了(平成17年12月)
博士(理学)(北海道大学)

専門分野

高分子ゲル, 機能性材料

訃報

名誉教授 白田 平 氏
(享年94歳)



名誉教授 白田 平先生が平成29年6月27日に逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和23年3月に大阪大学理学部数学科を卒業され、同25年3月に同大学院を修了後、同大学理学部文部教官助手、講師、助教授を経て、同39年8月に北海道大学理学部に教授として着任されました。昭和39年10月から併せて理学研究科を担当され、同61年3月定年退官されました。その間、ニースにおいて在外研究にも従事されました。

先生は、昭和30年までの初期においてトポロジーの研究を行い、現在、ナッハビン-白田の定理と呼ばれる、完全正則空間上の実数値連続関数の作る局所凸空間が樽型となるための必要十分条件を与え、当時の数学者を驚かせました。また、位相完備性に関する幾つかの興味ある深遠な定理を証明したことにより、同年10月に大阪大学から理学博士の学位を授与されました。

昭和30年以降の後期においては、故南雲道夫博士の偏微分方程式の研究に強い関心を持たれ、研究の対象を線型偏微分方程式の一般論に向けられました。先生の研究は、既存の枠組みに囚われることなく、明晰な深い洞察と新奇な手法に対する鋭い感性に裏付けられたものとして世界的に高く評価されています。実際、北海道大学着任後に開始された線型双曲型方程式系に対する初期値境界値問題の研究においても、その後の研究の方向性を決定づけるような深い結果を導いておられます。と同時に、同分野の発展には国内

外の学術交流の促進が必要不可欠であるとして、昭和50年より毎年、偏微分方程式論札幌シンポジウムを主催され、現在も同シンポジウムは後継者によって引き継がれ、今年で42回目を迎えるに至っています。

また、解析学講座に着任された当時の数学教室には多くの欠員があったため、先生は、研究の方向性を模索し指導者を求める学生達の将来を憂い、人員の増強にもご尽力されました。

本学を退官された後も非線型性を伴う電磁流体方程式の研究を精力的に進められ、その精神は今も後継者達によって脈々と受け継がれています。これらの顕著な教育研究に係る功勞により勲三等旭日中綬章を受章されました。

先生の長年にわたるご貢献に改めて感謝し、ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(理学院・理学研究院・理学部)

編集メモ

● 7月26日（水）に、松野博一文部科学大臣が本学を来訪されました。松野大臣は総長や役員との懇談後、第一農場での農作業ロボット、宇宙ミッションセンター、フード&メディカルイノベーション国際拠点を視察されました。農作業ロボットの視察では、無人トラクタの遠隔操作や、自律走行するトラクタに実際に乗車され、ロボット農業の一端を体験されました。





2006.6.17 石北本線 安足間（愛別町）

北の鉄道風景 52 ルピナス咲く頃

ルピナスは北米原産のマメ科の植物で、我が国に移入されたのは明治時代である。蝶の形に似た多数の小花が下から咲き上がる様子がフジの花を逆さにしたように見えることから、ノボリフジ（昇藤）とも呼ばれる。道内の無人駅や廃線跡などで、6月中旬から7月初旬にかけてルピナスの群生が咲き誇る光景がしばしば見られる。写真は石北本線の安足間駅、線路脇に咲くルピナスである。現在は無人化さ

れた同駅も、国鉄時代は駅員がいる駅であった。此処のルピナスは、過去に駅員の手によって植えられ、それが毎年咲き続けているものなのであろうか。かつて賑やかだったであろう場所にルピナスが咲き乱れる光景に一抹の寂しさを感じられる。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑦ No.760 平成29年7月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html